

2018年10月25日

「お客様に届く提案」を実現するデータの利活用基盤として、 紀陽銀行がデータ連携ミドルウェア「DataSpider」を採用 ～データの利活用を高い生産性で推進、デジタル時代の新しい取り組みの基盤にも～

株式会社セゾン情報システムズ（本社：東京都港区、代表取締役社長：内田 和弘、以下、セゾン情報システムズ）は、株式会社紀陽銀行（本店：和歌山県和歌山市、取締役頭取：松岡 靖之、以下、紀陽銀行）において、データ連携ミドルウェア「DataSpider Servista（以下、DataSpider）」を、行内でのデータ連携基盤として採用いただいていることを報告いたします。

紀陽銀行では、お客様への提案力を強化するため、データを活用したお客様サービスの創出に取り組んでおり、「DataSpider」を行内の様々なデータ利活用のニーズを効率的に内製で実現できる、データ連携基盤として活用いただいています。今後さらに、銀行のAPI公開への対応など、デジタル時代の銀行に求められる、新しいIT利活用の実現を支える基盤としても活用を進める予定です。

■地方銀行を取り巻く厳しい環境

紀陽銀行は、和歌山県内に本店を置く唯一の地方銀行です。「銀行を超える銀行へ」を目指すべき銀行像に据え、現在は「地域における更なる存在感の向上と収益力の強化の両立」を基本方針に様々な施策に取り組んでいます。特に中小企業取引において圧倒的競争力を有する地方銀行となることを目標として掲げています。

地方銀行は、地方経済を支える重要な存在である一方、近年、取り巻く経営環境は厳しさを増しています。日本経済の低成長と地方経済の縮小、市場金利の低下による収益性の悪化など、厳しい収益環境にあり、さらにはフィンテック企業など異業種の参入による競争激化も迫っています。

同行でも、地方銀行が陥りがちな金利競争から抜け出し「量から質への転換」を実現するため、「お客様のお困りごとに入り込む提案」を実現する取り組みを進めています。

「お客様に届く提案」を実現するためには、お客様データの十分な活用が欠かせません。しかし、お客様に関するデータは現実的に行内に様々な形、様々なシステムに点在していることが多く、お客様への提案活動を十分に支援できるデータの利活用基盤の整備は必ずしも容易ではありませんでした。

■「お客様に届く提案」を支えるIT基盤に求められること

行内に点在するデータを収集し活用するためには、お客様への提案に必要なデータを、様々なシステムから、FTPやデータベースの直接参照などそれぞれ異なる方法で収集し、データごとに異なる形式をそろえるなど活用に適した形にまとめる必要があります。

手作業でのデータ収集やその都度の個別対応では、作業効率が悪いだけでなくデータの品質面での懸念もあり、銀行が求める品質を担保した形で、決まった仕組みで処理がなされる何らかの仕組みも求められました。

さらには、データ利活用のあるべき姿は、お客様ニーズやビジネスの環境変化や、ITの進化に伴い刻々と変化するため、一度作った仕組みを使い続けるのではなく、必要に応じ、データ利活用の姿は迅速かつ柔軟に変更できる必要もありました。

■「DataSpider」により実現した、お客様提案を実現できる行内のデータ利活用基盤

紀陽銀行では、これらの課題を解決し、「お客様に届く提案」を支えるデータの利活用基盤として、データ連携ミドルウェア「DataSpider」を採用し、行内で広く活用しています。

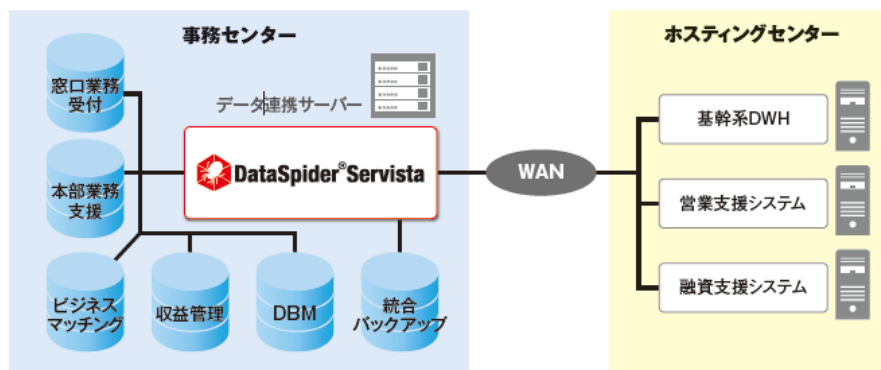
多種多様な接続先に対し、GUI 上での操作だけで連携処理が可能であることや高い安全性が求められる、銀行業の基幹系システムで多数の導入実績*があるデータ連携ミドルウェア「HULFT」と同じセゾン情報システムズが提供する製品であることから採用されました。

※15年連続国内シェア NO.1 (株式会社富士キメラ総研「パッケージソリューションマーケティング便覧」「ソフトウェアビジネス新市場」<ファイル転送ツール パッケージ・金額ベース>2003年度実績～2017年度実績・2018年度見込)

導入前の検証作業で既に、テスト用のDBからの連携処理がわずか10分で実現できるなど、高い生産性が実現できており、GUIでの開発でありながら、大量データも高速に連携できるなど本格的な連携処理の実現能力があることも確認できました。

導入により、行内での様々なデータ利活用のニーズに応じ、柔軟かつ迅速にデータ連携を行内の人員で内製できるようになりました。さらに、開発費の見積もりが数百万円だった連携処理が内製で実現できるなどコスト低減も実現。担当者の工数が削減できたことから、銀行にとってより重要な取り組みにも取り掛かれるようになりました。

DataSpider導入によるデータ連携基盤のネットワーク構成図



紀陽銀行では、基幹システムに登録されている情報を出先のタブレットから呼び出せるシステムや、各店舗への必要な情報が格納されたExcelデータを自動で集配信するシステムの実現など、さまざまな新しい取り組みでの活用を進めています。

今後は、新たな取り組みや新たな仕組みではDataSpiderでの接続を前提にするなど「DataSpiderファースト」での取り組みを進める予定です。

■「デジタル時代の地方銀行」を支えるIT基盤へ

今後、銀行業界はフィンテックなどデジタル時代の流れに向け、FintechやAIなど新たな取り組みへの対応、銀行に義務つけられるAPI公開への取り組みなど、さまざまな対応を迫られることとなります。一方で、旧来からある基幹システムを今後もしっかり維持し、お客様データの利活用を支援する取り組みも進める必要があります。

地方銀行のITに求められることはますます増えていますが、新たな挑戦に向けて人材を増やすことはそう容易ではありません。既存の環境を保守しながらも、新たな分野にコストと時間を割くための効率的な仕組み作りが、これからの取り組みでは必要になってきます。

セゾン情報システムズでは、これからのITを支える、各種クラウドサービスの活用や、RPA、OCR、AI、ブロックチェーン、IoTなど最新の取り組みも、同じようにGUI上での設定で活用が可能となるよう接続アダプタの整備を続けています。メインフレームなど旧来の様々な技術も同じように活用が可能です。

特別な技能を持つ人員を必要とせず、ビジネスの現場が自ら、新旧の様々な技術を組み合わせた IT 利活用を実現できる基盤として、今後さらに「デジタル時代の地方銀行」を支える基盤としての活用も期待されています。

■「DataSpider Servista」について

(製品詳細 URL : <https://www.hulft.com/software/dataspider>)

「DataSpider Servista」は、国内外累計導入社数 3000 社以上 (※1)、5 年連続顧客満足度 No.1 (※2) のデータ連携ミドルウェアです。洗練された GUI 開発環境を提供することで、コーディングを必要とせず、すばやく簡単に「つなぐ」ことができます。クラウドやオンプレミス、ERP システム、データベース上の様々なタイプのデータを手軽に接続できるアダプタを介して、データ連携の自動化と業務の効率化を支援します。

※1 2018 年 6 月末現在

※2 2018 年 6 月 (日経 BP コンサルティング調べ EAI ソフトウェア)

■株式会社紀陽銀行について

本社 : 〒640-8656 和歌山県和歌山市本町 1 丁目 35 番地

設立 : 明治 28 年 5 月 2 日

代表者 : 松岡 靖之 (取締役頭取)

資本金 : 800 億 96 百万円

事業内容 : 預金、貸出、有価証券投資、内国為替、外国為替、国債等の売買、代理業務、その他

URL : <http://www.kiyobank.co.jp/>

■株式会社セゾン情報システムズ について

本社 : 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-8-1 赤坂インターシティ AIR 19F

設立 : 1970 年 9 月 1 日

代表者 : 内田 和弘 (代表取締役社長)

資本金 : 13 億 67 百万円

事業内容 : Fintech プラットフォーム事業、流通 IT サービス事業、HULFT 事業

証券コード : 9640 (東京証券取引所 JASDAQ スタンダード市場)

URL : <http://home.saison.co.jp/>

商標関連

- ・「DataSpider」および「DataSpider Servista」は株式会社アプレzzoの商標です。
- ・その他の会社名、製品名、サービス名等は、各社の登録商標または商標です。

<報道関係者様からのお問い合わせ先>

株式会社セゾン情報システムズ

広報担当 : 豊田・横井

TEL : 03-6370-2930

E-mail : kikaku@saison.co.jp

<DataSpider に関するお問い合わせ先>

株式会社セゾン情報システムズ

HULFT 事業部マーケティング部 : 岡崎

TEL : 050-3199-2639

E-mail : info@hulft.com